

Point 普通のビールと地ビールの違いは？

小規模で醸造され、個性的な味わいを楽しめるのが地ビール。職人の手作りという意味から「クラフトビール」とも呼ばれています。魅力は大手のビール会社が販売していない「自分だけの一杯」を探すこと。

選ぶのに迷ったら、ブルワー（作り手）に聞くのがオススメです。



佐藤航 さん
さとう・わたる
世嬉の一酒造
代表取締役社長

「人と人とのつながり」を強く感じられるのもまた、地ビールフェスの魅力の一つ。コンパクトな会場に設けられた約2400の座席は、相席が当たり前。偶然隣になった者が、同士の意気投合する光景は、イベントの名物だ。狭いがゆえの絶妙な距離感が、自然に交流を生み出す。

誰とでも気軽に仲良くなれる不思議な雰囲気、来場者を魅了し続けている。

るあいにくの天気。それでも、客足は衰えなかった。

三日目、会場の盛り上がりは最高潮に。市内外から次々に人が押し寄せ、一部の店舗では品切れ状態になる場所もあった。

期間中の来場者数は合計で3万2784人。過去最多を更新するとともに、初の3万人超えを達成した。

県刈谷市から訪れた八重樫仁郁さん(24)は「毎年欠かさず参加しています。同級生やサークルのみんなを誘って『来年もここで会おう』と約束しています」とほほ笑んだ。

福岡県北九州市の宮本潤さん(39)・加名子さん(37)夫妻は「地ビールフェスのために7時間かけて駆けつけました。友達と過ごす時間は忘れられないほど楽しい」と魅力を語った。

家族、友人や同僚と絆を深めるために、何度でも来たい。思い出を共有したくなる。そんな思いが口コミでどんどん広がり、イベントの人

「絶妙な距離感」が生み出す交流

気を押し上げている。



世代の垣根を越えて語り合う来場者



特集
20年目の「乾杯」
THE BEER FESTIVAL IN ICHINOSEKI 20TH ANNIVERSARY

一関出身の蘭学者・大槻玄沢が「びいる」を全国に紹介してから約200年。麦酒ゆかりの地・一関で毎年8月に開かれる「全国地ビールフェスティバル」は、日本各地から人が詰め掛ける一関屈指の人気イベントだ。

なぜこれほどまでに人を引きつけるのか。20年目を迎えたイベントの魅力とスタッフの思いに迫った。

何度でも、誰とでも。

過去最高の来場者数を記録した今年の地ビールフェス。ファンの輪が、口コミでどんどん広がっている。交流が生まれやすい、独特の雰囲気の魅力だ。

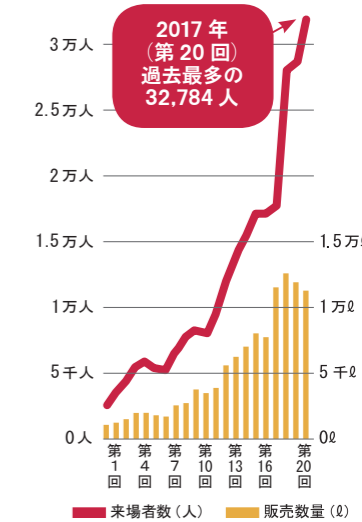
「全国地ビールフェスティバル一関（同実行委主催）」は8月18日から20日の3日間、一関文化センター前広場などで開かれた。日本各地から参加した100社250種類の地ビール、一関産の食材を使ったつまみや料理を味わおうと、全国から多くの「地ビールファン」が訪れた。

20回の節目を迎えた一関の恒例イベント。初日の金曜日夕方から開催される「前夜祭」でフェスティバルは幕を開けた。会場は、この日を心待ちにしていた地ビール愛好家であふれた。

二日目は、時折強い雨が降

来場者が初の3万人超え

右肩上がり成長を続ける地ビールフェス（開催年・来場者数・ビール販売数量の推移）



宮本潤 さん
みやもと・じゅん 39
宮本加名子 さん
みやもと・かなこ 37
福岡県北九州市

転勤しても忘れられない楽しさ

結婚9年目の夫婦です。転勤で一度は離れた一関。「またフェスに行きたい」という思いを抑えきれず、7時間かけて駆けつけました。友達と過ごす時間は忘れられない楽しさです。

地ビールだけでなく、食べ物もおいしい。どの店のメニューもこだわりを感じます。



八重樫仁郁 さん
やえがし・まさふみ 24
会社員／愛知県刈谷市

同級生と飲む地ビールは格別

一関高専のOBです。社会人になっても、毎年欠かさず参加している地ビールフェス。いろんな種類の地ビールを格安で楽しめるのがうれしいですね。

同級生やサークルの仲間と飲むお酒は格別。今から「来年もここで会おう」とみんなで約束しています。



住山祐二郎 さん
すみやま・ゆうじろう 30
ブルワー／新潟ビール醸造(株)

想像以上の熱気と活気

新潟県でビールの醸造をしています。地ビールフェスは初参加。お客さんとの距離が近く、想像以上の熱気と活気に驚きました。「おいしい」という言葉が何よりの励みです。

ブルワー（作り手）としても学ぶことが多いイベント。これからも地ビールの良さを伝えていきたいです。